

系 車

編集 山形村ふるさと伝承館

年中行事

年中行事は、人間の自然への畏怖や敬意、神仏への祈りが、長い年月を経て年中行事となり、親から子へ孫へと受け継がれてきたものです。人々はこの行事によって季節を感じ、生活を営み、そして人と人とのつながり

を深め、生活に潤いをもたせてきました。昨今社会構造の変化と共に、生活が合理化され、長い間伝えられてきた多くの年中行事が忘れ去られたり、省略されたりしてきています。また一方この年中行事を商業ベースにのせ、一部の行事を華やかに行っている傾向もありますが、本

来は各家庭や地域で素朴に行われたものです。ここで、かつて山形村で行われていた年中行事や、今も行われている行事を取り上げ、その行事の意味を考えたり長く受け継がれてきた数々の年中行事を見直す縁にしたいと思います。

▲ 三九郎



やまがたの年中行事

ここに掲載の年中行事は、主として明治末から大正、昭和の中頃までを扱っています。一年間には、数多くの行事があるため本号と次号の二回で紹介する予定です。掲載されている絵は山形民話クラブが作成した紙芝居のもので、文章も参考にさせていただきます。

一月一日 元旦

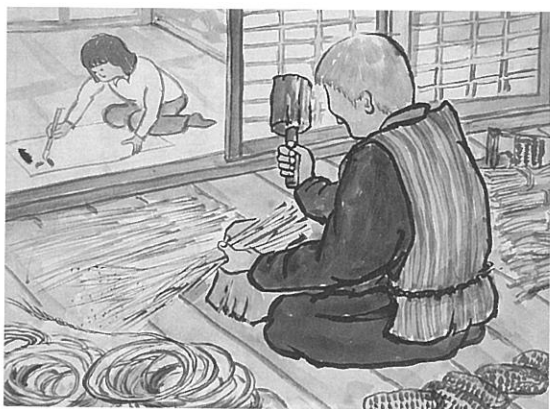
夜の明けないうちから売りにきた初音の「ピー、ピー」という音に、新たな年の到来を強く感じました。父親は暗いうちからお宮やお寺へお参りに行き、母親は若水ということで冷たい水を川で汲み、朝の炊事をしたりお湯を沸かししたりしました。

◀ 元旦 初日の出



た。家中の皆が揃うとコタツでお茶を飲み、今年もまめで暮らせようにと煮豆を食べました。朝食には雑煮を食べましたが、所によってはとろろを食べるところもありました。その後近所や親戚へ新年の挨拶に行きましたが、子供達はその時メンコや鉛筆、みかん、飴をもらうのが楽しみでもありました。

◀ 仕事始め 書き初め



一月二日 仕事始め 書き初め
子供達が寝ているうちからワラを叩く槌音が聞こえてきます。馬のワラ杓やすげ等を使って神棚に上げ、朝食をすませた後は草履やわらじをつくるなど、ワラ仕事をしました。また子供達は書き初めをしました。



▶ 七草粥

一月七日 七草

せり、なずな、すずな、すずしろ、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、この七草を入れるわけですが、冬で手に入らないので、干し葉、大根、ねぎ、人参等を使いました。このお粥を食べるとき、ふうふう吹き冷ま

しながら食べると、田植えの時に風が吹くといわれました。
またこの日には正月の松飾を下げましたが、男の子達はそれを集め、三九郎の準備に一生懸命でした。

一月十一日 鏡開き

暮れのうちにお供えした鏡餅を下げて雑煮にし、神仏に供えました。そして山からくぬぎの木を取ってきて、一尺位に切り、三ヶ所しぼって束を作り、梁に投げかけぶら下げました。また「寿宝花」とか「頭穂花」と書いて短冊に切り、門口に張ったものです。

◀ 鏡開き



一月十四日 若年 三九郎

お百姓の年とりとして賑やかに祝いました。お餅をついて新しい鏡餅を作ったものです。また、まゆ型・野菜の形・きんちやく形など思い思いのだんごを作り、柳の枝へ挿し、御勝手や物置、川端へ飾りました。父親は紙に大きく「五穀成就」「萬物作」「金銀沢山」等と書き、壁に貼りました。

その晩は子供達には楽しい三九郎で、準備は暮れのうちから取り掛かります。夕方から男の子達は集落内を回り、三九郎の歌を歌いながら人々を寄せ集めました。人々は誘われ

◀ 若年



てだんご棒を手に集まり、それを焼きました。そのだんごを食べると虫歯にならないといわれました。

一月十五日 鳥追い

「今日は誰の鳥追いだ 次郎 太郎の鳥追いだ おれもちよつとおいましよか ホンガラホイ♪」

朝も暗いうちから鳥追いの歌を歌いながら子供達は家の周りや辻を歩きました。拍子木や金簀、バケツを叩きながら田んぼまで行ったものです。

◀ 三九郎



▶ 鳥追い

一月十六日 おせい日

奉公人もこの日は家へ帰り休むことが許されました。今日は地獄の釜の蓋も開くと言われ、餓鬼道まで許されるといわれました。子供達も今日は良い子になって喧嘩をしない、人をいじめないと良い一日を送る様教えられました。

また午後には、松の内飾りを集め簡単な三九郎を作り燃やしました。男の子達は前日の三九郎の神木等燃え残りを各家に配り、色々もらって、夕方から大将の家で盛大なお祝いをしました。



▶ おせい日

一月十七日 山の講

山の神様のお祭りで、各家々では、柳や桑の枝で弓と矢を作り、山の安全を祈ったものです。昔の暮らしは炊事や風呂、冬の暖房等燃料はすべて焚き木や炭だったので山とは切っても切り離せないものでした。

またこの頃は庚申の日を祝い、講の皆が集まり輪になって「南無阿弥陀仏」と唱えながら大数珠まわしをしました。そして夜遅くまでお茶を飲みながら語り合ったものです。「話はお庚申の晩に」と話を後にする際使いますが、ここから来ている様です。





大数珠まわし

一月二十日 二十日正月

若年に作つただんごを下ろしてお雑煮やおしるこにして食べました。女の人はこの日から里へ行くことを許されたもので、女正月と言われ、女性を樂にさせたものです。

また恵比寿様がお立ちになるとい
うことでお米やお金を神棚に上げて
拝んだりしました。

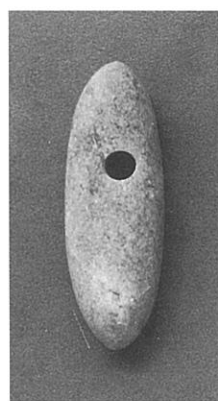


▶ 節分

二月四日 節分

豆まきの日です。明るいうちから戸口へ「十二書」と書いた紙を張ったり、恵比寿様の顔隠しといって、顔に白い紙を張ったりして、新しい

神を迎えます。一升マスに入れた豆を神棚に供えてから、子供達はいよいよ豆まきをします。ありったけの声で「鬼は外、福は内」と言いながら豆をまき、その後からすりこ木をもって「ごもつとも、ごもつとも」と言いながらついて回りました。それが終わると自分の年の数だけ豆をつかみ出さねばならないと、何回も数になるようつかみ直したものです。この豆を紙に包んでしまっておき、初めて雷が鳴った時に食べればお腹を病まないといわれました。

$$\begin{array}{ccccccc} \angle & & \angle & & \angle & & \angle \\ \cdot & & \cdot & & \cdot & & \cdot \\ \angle & & \angle & & \angle & & \angle \\ \cdot & & \cdot & & \cdot & & \cdot \\ \angle & & \angle & & \angle & & \angle \\ \cdot & & \cdot & & \cdot & & \cdot \\ \angle & & \angle & & \angle & & \angle \\ \cdot & & \cdot & & \cdot & & \cdot \\ \angle & & \angle & & \angle & & \angle \end{array}$$


山形村指定文化財に
淀の内遺跡出土ひすい製大珠
殿材古墳出土墨書土器
が新たに指定される

この度右の二件が、村の歴史を語る上で特に重要であるとして指定されました。上大池区淀の内遺跡出土のひすい製大珠は、新聞報道等で大きく取り上げられたので既に御存知かと思えます。上竹田区殿村古墳で発見された墨書土器は、昭和六十年に発掘調査により発見されたものです。その後の調査で県内出土の墨書土器（土器の表面に墨で文字が書かれている土器）としては最古のものということが判明しました。また「錦織部（にしごりべ）」と書かれています。大陸からの渡来系氏族との関連を考える上でも貴重なものです。両方とも当館で展示公開していますので御覧下さい。

ひすい製大珠